

ベネズエラ大統領選挙をどう見るか①

28日ベネズエラ大統領選挙が、内外の大きな関心の中、全国の15,797投票所で、有権者21,620,705人（国内）、228,000人（国外）を対象に、早朝の午前6時から午後6時過ぎまで（投票所の参列者が終わるまで）投票が行われました。

29日の午前12時に行われた、全国選挙管理委員会（CNE）の発表によると、投票率は59%でした。開票報告書率80%の段階で、CNEは、ニコラス・マドゥーロ候補が、得票数5,150,092票、得票率51.20%、野党のエドムンド・ゴンサーレスが、得票数4,445,978票、得票率44.2%、その他野党8人の候補合計得票数462,704票、得票率4.6%で、投票傾向が不可逆的であるとして、マドゥーロ候補の当選を確定しました。

選挙は、与党、野党とも一部の小さな乱れはあったものの、ほぼ平穏に行われたことを確認しました。

この選挙には、世界の95余か国から、910人の国際監視員が参加しましたが、南アフリカ監視団（ANCなど7組織で構成）は、投票終了後共同声明を発表し、選挙で不正がなく、自由で公正に行われたことを確認しました。カーター財団は、30日火曜日に見解を発表する予定です。

国際メディアでは、CNNが、「ニコラス・マドゥーロ候補が、得票率51.20%、野党のエドムンド・ゴンサーレスが、得票率44.2%、で、マドゥーロが当選したと、コメント抜きで報道しました。なお、CNNは、「23日にベネズエラの選挙システムは堅固であり、どんなエラーでも、専門家は見つける。不正選挙なしでマドゥーロは勝利すると、専門家は述べる」と報道していました。

今回選挙に立候補した野党の候補の中でも、ハビエル・ベルトウッチや、エンリケ・丸毛エスなどは、今回の選挙の公平さに信頼を表明しています。もともと、エドムンド・ゴンサーレス（民主団結会議 MUD）を除く、9名の立候補は、CNEの選挙結果を尊重する合意書に署名しています。

MUDの指導者マリア・コリーナは、CNEの選挙結果発表の後の記者会見で、「ここに数字を持っているが、それは言わない。マドゥーロの勝利を認めない。自分たちがもっている40の開票報告書によれば、ゴンサーレスは、70%得票していた」と、具体的証拠を示さずに述べています（24.07.29 El Nacional）。しかし、奇妙なことに、保守系の El Nacional 紙は、グローブビジョン、エルユニベルサルなどの中立系新聞が、出口調査を掲載し、それによれば、マドゥーロが54.57%、ゴンサーレスが42.82%の得票率と報道していました。El Nacional 紙は、「与党は出口調査を掲載しないという約束を破った」と批判しましたが、出口調査の内容はでたらめとは批判せず、自分たちの出口調査の数字も

明らかにしませんでした（24.07.28 El Nacional）。今回の CNE の数字は、この出口調査と似通ったもので、CNE の数字の一定の信ぴょう性を示しています。

それにしても、朝日、毎日、産経、時事、NHK 国際報道、赤旗といい、一体どのような客観的な取材、資料にもとづいて。エドムンド・ゴンサーレスが 60%近く支持され、マドゥーロは 20%しか支持されていないと報道したのでしょうか。選挙集計が不正であったと簡単に逃げられる問題ではありません。

（2024 年 7 月 29 日 新藤通弘）